

1. 研究目的

私が4年生のころ、アイルランドにホームステイした際に、折り紙を持ち込みホストファミリーに渡したところ、ホストファミリーは興味津々だったが「折り方を見てもよくわからない」、「折り紙を知らない」などと言われ、日本文化を伝えたいと思っても上手く伝えられずとても残念な気持ちになった。この出来事をきっかけに、日本文化を様々な国の人にも知ってもらいたいと考えた。そこで、外国人にとってわかりにくいであろう、折り紙の世界を題材にテキストを制作し、わかりやすく楽しんでもらいたいと考え本研究を進めることにした。

2. 調査と分析

JNTO(日本政府観光局)が調査した『日本滞在中、最も不便だったこと』によると、「言葉が通じない」などのキーワードが目立った。また、現在市販されている外国人向け折り紙テキストは、以下の点が見られる。

- ・ 文章中心で構成されているものが多い。
- ・ 使われているイラストがわかりにくい。
- ・ 折り方の説明文などに英語訳付きの言葉が使用されている。
- ・ ページに直接、印刷されている折り紙を切り取ることができる。

そこで、言葉を使わず、わかりやすい折り紙テキストを制作することにした。

3. コンセプトの立案

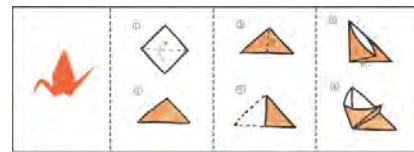
イラスト中心で伝えるテキストがあれば、どんな国籍の人でも折り紙を折れるようになり、日本文化として気軽に体験し、日本文化を知ってもらえる。そこで、テキストのコンセプトを「わかりやすく楽しめる」に設定した。

4. デザイン展開

テキストの内容はサンタ・かぶと・ツル・箱・雪うさぎの全5種類とした。折り方の表現は、どの国籍の人でも負担なく理解できるよう、説明文は一切入れず、イラストのみで表現することとした。

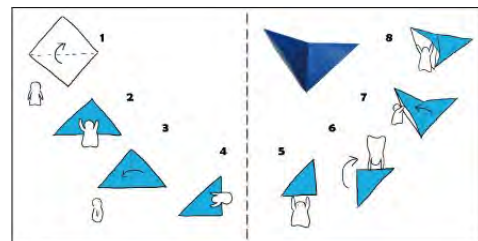
最初に制作したテキストは、折り紙のみをイラストで提示したものであった。このテキストをフィリピンの留学生10名に試し、テキストを見ただけでできた人は10名中2名程度しかいなかった。問題があった行程は「ひっくり返す表記」がなかったり、「上下の向きを変える表記」がなかったりしたため、混乱

を招いた。そこで問題解決のために提案として小さなキャラクターが折り紙を折る設定とし、イラストで表現した。さらに中身のレイアウトは半円を描くように流れる手順にした。



第1モデル

5. 完成図



内容



表紙



閉じた状態

6. 結論

20名程の留学生にそのテキストを試したところ、テキストを見ただけで出来た人は2、3名程度だった。しかし、理解しながら楽しんでもらうことができた。テキストについてはこの検証を通し、各見開きページの最後にくる行程のみ本物の折り紙を貼付け、よりわかりやすくなるようにした。さらに最後のページにもポケットを貼り、完成した本物の折り紙を入れた。表紙は一目で作品内容がわかるよう、完成品のイラストを載せた。テキストは蛇腹タイプで紐を使ってまとめる。留め具は笹止めをつけてどんな大きさのものでもしっかりとまとまるようにした。以上のように、日本の伝統文化である折り紙を言葉を使用せずに伝えるためのテキストを完成させることができた。

文献

[1] 小林一夫“英訳付き 伝承折り紙帳”、“オリガミ様のお江戸おりがみ 12ヶ月”

[2] JNTO 日本政府観光局 <http://www.jnto.go.jp/jpn/>